

第10回各務原市地域公共交通会議 議事録

日 時	平成28年5月23日(月) 13:00~14:30
場 所	各務原市役所 産業文化センター 8階第1特別会議室
委 員 (敬称略)	<p>【出席】</p> <p>武藤 行儀 (岐阜乗合自動車株式会社) (代理:光村克巳)</p> <p>山田 勝美 (株式会社岐阜バスコミュニティ取締役社長) (代理:森淳三)</p> <p>夫馬 康昌 (名古屋鉄道株式会社西部支配人室営業総務課長)</p> <p>岡本 朋大 (岐阜交通株式会社常務取締役)</p> <p>山田 芳喜 (社団法人岐阜県バス協会)</p> <p>川瀬 勝秀 (稲羽川島自治会連合会長)</p> <p>宝島 一雄 (鵜沼自治会連合会長)</p> <p>河野 加代子 (市シニアクラブ連合会理事兼女性部会部長)</p> <p>足立 千春 (子ども子育て会議委員)</p> <p>清水 孝子 (八木山地区生活支援ボランティア事務局員)</p> <p>二輪 昭宏 (中部運輸局岐阜運輸支局首席運輸企画専門官) (代理:下平)</p> <p>古田 茂 (岐阜バスコミュニティ労働組合)</p> <p>野田 純大 (岐阜国道事務所管理第一課長)</p> <p>瀧瀬 英一 (各務原警察署交通課長)</p> <p>大城戸 克之 (岐阜県都市建築部公共交通課長) (代理:中島良)</p> <p>津田 忠孝 (各務原市議会経済教育常任委員長)</p> <p>柘植 藤和 (各務原商工会議所専務理事)</p> <p>倉内 文孝 (岐阜大学)</p> <p>浅野 健司 (各務原市長)</p> <p>磯谷 均 (各務原市副市長)</p> <p>【事務局】</p> <p>各務原市 産業活力部商工振興課</p>

- ・ 市長あいさつ
- ・ 議事
 - ①各務原市地域公共交通会議の役員選任
 - ②平成27年度決算平成28年度事業計画(案)について
 - ③地域内フィーダー系統確保維持計画
- ・ 報告
 - ①リニューアル運行後の利用状況について
 - ②地域公共交通調査事業(計画推進事業)について
 - ③平成28年度事業計画について
 - ④株式会社岐阜交通の分社化について
- ・ その他

浅野市長 挨拶

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、今年度としてははじめての各務原市地域公共交通会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。通算では10回目になりますが、過去においても多大なるご意見、ご提案をいただいて昨年10月に運行を開始しました。今年度は1回目ということで、中部運輸局岐阜運輸支局の二輪昭宏様、岐阜国道事務所の野田純大様、岐阜県都市建築部公共交通課の大城戸克之様、市自治会連合会からは川島勝弘様、河尻孝治様、川瀬勝秀様、宝島一雄様、八木山地区生活支援ボランティアの清水孝子様にも今年度から委員ということでご審議いただきますので、どうぞ宜しくお願いします。

22日の新聞によりますと県内42市町村のうち有料バスを設置しているのが34市町村、その中で18自治体がデマンドタクシーを導入しており、特に公共交通が重要視されています。人口減少という大きな課題がある中でも行政や地域の方々がどういう対応を取るのか、皆さまから意見をいただく場においてその意見をどの様に取り込んでいくのかということが一つの課題になっています。

この交通会議は今回で10回目になり、今までも皆さまからいろんなご意見、またワークショップでも地域の方々から多岐にわたるご意見、ご要望をいただき、昨年10月からここまで大きな問題もなく、順調に進めてこられていると思っています。これもひとえに皆様方のご支援とご協力の賜物であります。特に岐阜バスコミュニティ様、岐阜交通様には、安全運転と利用促進の取り組みにつきまして、格段なるお力添えをいただいていると思っています。今年度は若干の微修正をして行くということから、その背景としては、今年度末の3月に予定している鶉沼市民サービスセンターの完成があります。現在は乗継拠点となっていますが、この移行についても今後の検討課題として残っています。今後の調査や懇談会を実施しながら、より市民の皆さまに乘車していただきやすいまたは親しみいただけるような公共交通にしたいと思っています。

いずれにしても、今後も交通事業者、あるいは市民の皆さまと共に行政としても公共交通の維持活性化に向けしっかりと取り組んでいきたいと思えます。本日は限られた時間ではありますが、是非とも忌憚のないご意見を賜りまして、更なる各務原市のふれあいバスあるいはデマンドタクシーの活用についての議論をいただきたいと思えます。

最後になりますが、今日は非常に暑い日となりました。これから暑さが増してくると思えます。皆さま方におかれましては、是非とも健康には十分ご留意いただきまして、これからの暑い季節も楽しんでいただき、またご活躍頂きますことをご祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願い致します。

・議事①

主な質問・指摘事項
柘植委員と川島委員の幹事選任について <柘植> ● 異議なし ※川島委員は事前に了承済み

・議事②

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<清水> ● ワークショップ開催支援に約 280 万円が挙げられている。八木山地区で買物のワークショップがあり、コンサルタントが来ていた。しかしそういうことは自分たちでできる力があるので、その出費はやめてほしい。今後そのようなことがあるなら、市民の力を信じて、業者への出費なしでやってほしい。業者を呼んだことで効果があったか疑問である。私たちは日頃からやっているのをお願いしたい。	<事務局> ● 業務名は「ワークショップ等」となっており、バスマップの企画等がメインであったが、実質的には 1 年の間にルートやダイヤ素案の作成もお願いしてきた。タイトルで誤解を招いてしまったかもしれないが、1 年を通しての住民懇談会の資料作成等をトータルでお願いしてきた。今後は誤解のない業務名にしたい。

・議事③

説明補足
<岐阜運輸支局 下平> 補助金の考え方は、かかった費用に対して予測収益の差額が補助対象になる。国の要綱上、2 分の 1 であるが、その年の予算により変わってくる。人口集中地区以外の人口を用いて計算すると補助金は約 1,100 万円を上限に計算する。差額の 2 分の 1 が約 1,600 万円だが、先程の計算により約 1,100 万円に抑えられたところから、これを軸に今後調整を重ねて補助金額を算定していく。

・報告①

説明補足
<p><岐阜バスコミュニティ 森></p> <p>一般的には再編をすると利用の仕方が変わってしまうことが影響し、利用が減る。しかし各務原市に関しては利用促進や事前のアピールをきめ細かくやっていると思う。</p> <p>平成 28 年 4 月は昨年と同月と比べると約 107%であり、1 割には満たないが伸びている。</p>
<p><岐阜交通 岡本></p> <p>平成 27 年 10 月のリニューアル後、概ね堅調である。ふれあいタクシー発足当時から事務局のきめ細かな利用促進もあり、当初の予想よりも多い利用である。その後も 3 月まで右肩上がりの利用があり、更なる利用促進を提案し、発展に尽くしていきたい。</p>
<p><各務原警察署 瀧瀬></p> <p>免許証の返納について、確定の数字ではないが、1 月～5 月 10 日まで 45 人、3 月までで 38 人であり、4 月～5 月 10 日まで 7 人の免許返納があった。資料を見ると 8 人が支援制度を活用しているので、支援策と免許返納が連動できていると思う。そのため効果的な施策だと感謝している。引き続きこういった支援策をお願いしたい。</p> <p>また、一昨日には高齢者の交通事故も発生している。運転者もはねられた歩行者も高齢者であった。ますますこういった対策が大切な時代になっているので、宜しくをお願いしたい。</p>

※委員からの質問や指摘事項は、なし

・報告②

説明補足
<p><岐阜運輸支局 下平></p> <p>計画推進事業は、各務原市が昨年に地域公共交通網形成計画を策定しているが、このような交通計画を策定しているところの利用促進を補助するものである。市として利用促進にかかる経費の予定が約 500 万円のところに約 160 万円を補助していく。この金額で補助することが交付決定しているので、この金額でお手伝いさせていただきたい。</p>

※委員からの質問や指摘事項は、なし

・議事③

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p><清水></p> <ul style="list-style-type: none"> ● いろんな方法で利用しやすくしようとしていることは分かった。しかし市の職員がいくら考えても市民がどういう意識ということが大切である。 ● 現在、6月11日にみどりっこバスの芥見東地区の人たちの講演会を予定している。利用しやすいバスを運行している芥見東地区の人たちから学びたい。 ● 私たち市民は市に対し、市が悪い、東海中央病院直接行くようにしろなど、文句は言うが自分たちはどうなのか。自分たちはこれをするから、市はそれをやってくれというようなスタンスにしていきたい。 ● まずはみどりっこバスの話を聞き、そしてアンケートをとる。今回の再編で私たちの地区はバスが良く走るようになったが、本当に地域の人が利用しているのか。確かに利用は多くなったと思うが、乗り方がわからず車を利用している人もいるという実態がある。だからバスの利用を勧めたいと思う。 ● 今後、八木山地区は高齢化が進み、高齢で運転できない人がどう通院や買い物をするのか。バスに頼らざるを得ない地域になる。それに向けてアンケートをとったり、勉強会を開いたり、8月6日には市に来てもらって懇談会を開催予定である。 ● バスのボランティアをやっているが、乗る便を間違えて困っている人を病院へ運んだりした。しかし地域の人がある所に住んでいる人に周知をしていくことが大切であり、地元の意識を高め、自分たちのバスというスタンスで臨んでいる。 	<p><議長></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者側の問題もあると思うが、なるべく多くの方に便利さを共有できればと思う。

<p><足立></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちは、例えばイオン各務原に行く時、バスだと乗り換えがあるので、少し危険だが自転車で行ってしまう。バスの使い方を子どもがわかっていないので、子どもたちも使えるようになれば利用者は増えると思う。 ● 例えば、高校見学の時は親とふれあいバスを使って見学に行く体験をお願いしたり、学校行事の中でバスを使っていくこともあると思う。親と利用する機会もないので、集団で教えてもらえるといい。小学校ではいろいろとやられているが、高校に行くまでバスに乗ったことがないという中学生もいる。そういった体験を学校や地域の中で取り入れていくと利用も増えると思うし、親の安心にもつながる。 	<p><議長></p> <ul style="list-style-type: none"> ● マイカーの利用が多いので、行きはバスで行っても帰りは迎えに来てもらうこともあると思う。ドアツードアというわけにはいかないのに、乗って体験されることが大切だと思う。 ● 子どもたちについても同じことだと思う。塾の送り迎えも夜になると大変である。高齢化が進むとバスも必要になってくると思う。 ● 無理に車をバスに変えるのではなく、便利な範囲で使ってもらいたいと思う。
<p><河野></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 私は今までふれあいバスを利用したことがない。バス停が遠く、バス停までの道も危険である。今までこの会議に参加しているが、なんで参加しているかわからないまま参加している。 ● 車の利用ができたり、地域で乗り合わせていけるところでも数年後はできなくなることも起こり得る。那加地区は便利なようでとても不便な地区である。少し前まではバスが走っていたが、今は尾崎の方を走っている。 ● 観光めぐりがあれば孫たちと利用してみたいので、教えてほしい。そうすればシニアクラブにも伝えられると思う。 	
<p><川瀬></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 以前利用した時に運転手から、アンケートもいいが運転手から話を聞くのもいいと思うとの意見を聞いた。 	<p><議長></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運転手は安全に気を使っているのに、運転手の意見を聞くのも大切だと思う。

報告③

説明補足	
<p><事務局></p> <p>岐阜交通の分社後も新会社と契約を続けていきたいと考えている。また、手続きについては岐阜運輸支局に指導を仰ぎながら適切に進めたい。今後、この会議での議決が必要になれば、10月の次回の会議または書面での議決を得たいと考えている。</p>	

倉内先生 総括

利用状況については、3月の報告と大きく変わらず順調であると理解した。細かく見ると4月は少し落ち着いたが、これはたまたまなのか、どうかといったところは少し注視した方がいい。引き続きチェックしていくと思うし、問題が出てきたときには議論できればと思う。

アンケート調査は、非常に細かく回答者は大変かもしれないが、ぜひこういった細かいデータを集めてほしい。そしてできる限り地域ごとの分析をしてもらい、サービスが良くなったところ、悪くなったところが見えてくるような、地域のニーズをつかめる分析をしてほしい。10月のまとまった結果を楽しみにしている。

日ごろ使っていないくてなかなかイメージが難しいという意見があったが、最もな意見である。いろんな会議に出席しているが、昔は、車があるからこんなものは税金の無駄遣いでいらないという意見が多かった。それが変わりつつあり、いまは使わないが数年後は使うかもしれないので、ないといけないという風潮に変わってきていると思う。また、地域によってはもう少し進んで、ないと困るという意識に変わってきている。

そういったところから、地域が一体となって何とか残していかないといけないという風に移っていくと思う。必ず必要になってくるところがあるということを理解しないといけないし、行政はそれを分かってもらうための活動をずっとやらないといけない。各務原市さんはそれを一生懸命やられている。このまま進めてほしいし、これを地域に分かってもらうことが重要である。

もちろんお年寄りや体の不自由な方の移動を確保することは非常に重要だが、特に感じているのは、交通安全の視点である。今までは、高齢者の事故が多いと言っても高齢者が被害にあう事故が多かった。しかし足が悪くて怖い思いをしながら車に乗っていると加害者として高齢者が巻き込まれる状況が起きてくるのが、今後は増々懸念される。

少し専門的な言い方をするとバスは足を確保するだけでなく、公共交通は交通事故の防止にもつながってくる。あるいは医療費の削減に効いてくるといわれている。自分で動くので寝たきりになるまでの時間が増える。また、医者が患者のところへ時間をかけて行くよりも、患者に来てもらうものを無料で提供した方が、社会全体では、効率がいいという考え方もある。部署を越えた便益（クロスセクターベネフィット）という考え方をする。こういう風に考えるとコミュニティバスはいろんな価値のあるものだと考えている。しかしそれを数値化することは難しい。

市役所としてこういったものの重要性をアピールするためには、副次的な効果というものも研究、整理して話をしてもらえるといいと思う。

その中で子どものためというのは非常に興味がある。例えばバス車内で書道や絵画の展覧会をやるとか、小さな子どもは乗り物に乗るのが好きなので、乗る機会があれば乗る癖がついてくるので、そういったものも考えていけると思っている。

今日は沢山利用者の意見を聞いたし、今年の計画の中で色々と利用促進策を検討されると聞いているので、是非事務局にはそういったイベントを企画いただければと思う。